

第4回 小諸市学校再編計画検討懇話会 会議録

令和4年11月10日（木）開催

開催日時 令和4年11月10日(木) 18:30 ~ 20:06

開催場所 小諸市役所 第1、2会議室

出席構成員 川原田雅夫 小松 幸夫 (WEB参加) 塚田 直道
清水 信 南澤奈々絵 高橋 拓哉 神津 昌也
依田 勝彦 栗林 正直 小山 里恵 新津伸太郎
山田 雄司 以上12名
(欠席 : 鹿取 俊彦 相原 良男 中澤 隆治 以上3名)

事務局 教 育 長 山下千鶴子 総 務 部 長 柳澤 学
教 育 次 長 富岡 昭吾 財 政 課 長 土屋 雅志
学校教育課長 黒岩 孝幸 マネジメント推進係長 吉澤 一男
教育総務係長 小林 喜明 学校教育係長 高瀬 龍二
事 務 主 任 瀧川 宜隆 事 務 主 任 竹内 彩

株式会社 ファインコラボレート研究所
望月 伸一 土肥 千絵

1 開会

〈進行：学校教育課長〉

2 協議事項

(1) 小諸市学校再編計画（案）について

(会長)

皆さんお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

前回に引き続いて、第4回目の懇話会となります。前回まではどちらかというと学習会といえますが、基本的な部分をおさらいして勉強してきたわけですが、今回からは、教育委員会から新しい案を示され、それについてそれぞれの立場から質問、意見を通しながら、教育委員会へお伝えしていくこととなりますので、どうぞよろしくお願いします。午後8時頃をめぐりに終了させていただきますのでよろしくお願いします。

それでは協議事項に入ります。事務局説明をお願いします。

(事務局)

それでは説明をさせていただきます。

説明に先立ちまして、これからのスケジュール等について説明をさせていただきます。先ほど会長からお話がありましたとおり、9月29日から3回実施いたしました懇話会ですが、こちらについては勉強会という位置づけで、今までどうなっていたのか、どういった教育に変わってきているのかといったお話をいただきました。

今回、第4回目の懇話会ということで事務局から、学校再編計画（案）を提示させていただきます。

この内容を受けまして、この状態で皆さんに意見を出してくださいと言っても難しいところがあると思っておりますので、視察を二つやらせていただきたいと思います。日程をお伝えするのが遅くなりまして申し訳ございません。まず視察1としまして、11月24日木曜日の午前中、もしくは11月25日の金曜日の午後に、芦原中学校と水明小学校の既存の小・中学校の状況を見ていただきたいと思います。子どもがいるところを見ていただいたほうがよいと考えまして、大変申し訳ありませんが、平日に設定をさせていただいております。構成員の皆様、どちらか都合のよい日をご検討いただければと思います。後日、出欠席の確認をさせていただきますので、今日のところは日程の確認をお願いします。

続きまして、12月14日水曜日、こちらは第5回懇話会の日になりますが、こちらの日も平日ですが先進地視察ということで、東京へ参りたいと考えております。同様の理由で平日になりますので、ご都合つくかどうかは当然ありますが、ぜひ前向きにご検討いただければと思います。

今日のお話をさせていただいた後、こういった先進地等を視察して、いろいろなイメージが皆さんに湧いてくると思っております。その湧いてきたイメージをもとに、第6回懇話会の中で皆様のご意見をいただきたいと思います。思っております。

いただいた意見を事務局でまとめながら、第7回懇話会で改めて再編計画（案）を提示させていただきます。もう一度ブラッシュアップした結果、3月24日の第8回懇話会である程度方向性を固めていきたいと考えております。

その後、以前ご説明させていただきましたとおり、市民説明会、パブリックコメントを経て、計画（案）を計画として議決してまいります。

その先ですが、実際その計画に沿った、小諸市全体の学校運営をしていく一方で、統合小学校の開校準備が始まっていくこととなります。

皆様については、計画の議決までが懇話会の構成メンバーですので、ご承知おきをお願いいたします。

〈説明資料〉 別紙1のとおり

それでは、お手元のA3見開き資料になりますが、こちらに沿って説明をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

まずおさらいになりますが、児童生徒の人口が一番多かったときに現在の小学校が作られていて、そこから右肩下がりで児童生徒数が減っております。今後も減る予想になっているという推計の資料になります。

これを中学校別、小学校別で数字を出すと、2ページは小諸東中学校区の状況になります。3ページは芦原中学校区の状況になります。

こちら、見比べていただくとおわかりになると思いますが、芦原中学校区の方が、色が多くついています。色がついている状況というのは、学校が小規模校化する、もしくは単学級化していくということになります。

こういったところで見えていただくとおり、芦原中学校区のほうが、児童生徒数の減少は著しい状況になっていますので、今までご説明させていただいている、芦原中学校区を先行してやっていくというのが、こういったところから出てきています。

また、学級が減って何が問題なのかということですが、様々なメリット、デメリットがありますが、その中でも先生の配置が難しくなっていくということがあります。こういったことによって、専科の先生が配置できないような状況が出てきたりすることが一つの課題になるかと思えます。

続きまして、人数が減った場合にこういった課題が出てくるのかというものを、子ども、授業、教職員、学校行事など、そういった視点からまとめているのが4ページの資料になります。

このような課題がある一方で、再編をしていくまでにはどうしても時間がかかりますので、再編できるまでに、いろいろとできることがあるという説明を下でしています。

今までの資料等を受けまして、方向性として提案をお示ししておりますとおり、まず芦原中学校区の小学校3校に関しては早急に統合していく。小諸東中学校区に関しては芦原中学校区の後に検討を行っていくということを確認しています。

続きまして、芦原中学校区の再編計画を実際にどのようにやっていくかという中で、学校地の検討をしていく必要があるということで、今回、案をお示しさせていただいています。

現状の案のままというのが一番上になります。

統合する場合の案ですが、この間、協議会以降、答申をいただいてから教育委員会事務局でどのような場所があるかということを確認しました。いろいろ考えましたが、現実的に考えて計画案とすると、計画案1、2に絞られるということで、計画案1、2をベースに考えています。

計画案1が、小学校近接ということになりまして、水明小学校に新しい統合小学校を建て、中学校はそのまま芦原中学校を使うというプランになります。

続きまして計画案2ですが、芦原中学校に小学校を併設する併設案になります。

基本構想の中でも、既存の中学校になるべく近いこと、3小学校からなるべく離れないこと、そういった条件を満たすところを考えていくと、計画案1、計画案2というところで検討を進めていくべきと考えています。

12ページに各現状、計画案1、2の児童生徒数、教員数などをまとめています。

続きまして、こちらも見開きで見ていただきたいのですが、実際に計画案1、2を提示しましたが、皆さんに計画案1、2についてどのようなメリット、デメリットがあるかどうか考えてくださいというのは、なかなか難しいと思っています。そこで、もう一度ご説明をさせていただきます。

こちらは方針の中でまとまっていた内容になりますが、学校施設のあり方を考えるため、教育のあり方は、どのような教育を子どもたちにしていくのか、そのために学校をどのような形にすればよいのかということをもとめた資料になります。

一番左側の緑色の枠のところになりますが、答申の中で出てきます、一人一人の学びを支える教育を推進するためと書いてあります。これは2回目、3回目の懇話会の中で話題にしましたが、最終的にどのような子どもたちが社会で望まれているのか、そしてその結果として今教育がどのように変わってきているのか、ということ考えた場合に、子どもたちの資質、能力を伸ばす必要があります。そのためには、学校として、一人一人の学びを支えるような学校であって、そのような教育を推進したほうがよいということがまとめられました。

それで、その学校というのはどのような学校なのかをもとめたのが下の枠になります。学校、地域、家庭が一緒になって子どもたちを育てていく、そしてその中で資質、能力、学力を向上させていく。学びに向かう姿勢といったものを育てていきたいと思いますということになります。具体的にということで、四角の2、3、4になりますが、小中一貫教育の実施例、市民参加による教育の推進、学びを支える環境を整えるとありますが、こちらも具体的に示されるものが右側にあります。

色で同じものを指しておりますので、家庭から説明をさせていただきます。

家庭が一番わかりやすいところで、今までもそうであったように家庭内の学習を親が見守りながらやっていく。今までと少し違うところは、ICTが普及してきた中で、子どもたちが家の中でオンライン学習などをしていくといった姿をイメージしています。

続いて学校の姿ということで、見開き右側の黄色い枠になります。

授業の中でICTの推進等も広がってきておりますので、こういった活用を図りながら、子どもたちの学びを助けていく、またアクティブラーニングを実際に行っていくということを挙げています。また、小中一貫教育の実施例ということで、小中一貫教育といってもなかなか伝わらない、言葉のところで難しい部分もあると思っております、その辺りは真ん中にある三つの事例でイメージがしやすいと思います。

小学校の方でも教科担任制がどんどん始まってきています。教科担任制は中学校と同じようなイメージになると思いますが、理科や算数などをその専門の先生が教えるという形だと思っています。こういったもので中学校の先生と小学校の先生がうまく連携しながら授業を実施していく。また、中学生が小学生の面倒をみたり、小学生が中学生の姿を見て憧れを

抱く、そのような気持ちを育てていくこともできると思います。

そして最後の小中教職員の交流というところで、小学校は小学校、中学校は中学校ということではなく、1人の子どもを小学校のときから中学校の先生と一緒に見守っていく、育てていくといった姿を一つの形と考えております。

続きまして、青い枠の地域（コミュニティスクール）ですが、地域で子どもを育てるといのはなかなかイメージしづらいと思います。まず、右下に地域から学ぶというところを書いてありますが、子どもたちにとって、統合することによって世界がかなり広がっていきだろうと考えられます。例えば、水明小学校の子だと、弁天の泉は自分たちの教育課題になりやすいですが、氷風穴はなりづらい。ただし、統合することによって、全ての子どもたちが弁天の泉や氷風穴が教育課題の題材にでき、その地域からいろいろなことを学ぶことができるようになることが考えられます。

また、地域ボランティアの居場所作りということで、左側に地域連携協働スペースとありますけれども、こちらは地域の人々が寄ってきて、学校のために何かボランティアをなさいたいということではなく、自分たちが好きな趣味の活動などを学校でやることで、その活動の一端で子どもたちに触れることによって、それが子どもたちの育ちにつながることをイメージしております。

こちらに関しては、統合小学校だけの話ではなく、地域コミュニティスクールの繋がりになるわけですが、活動の場作りというような形で美南ガ丘小学校に、当然小諸東中学校区も同じようなことを合わせてやっていくことが必要だと考えています。

こういった学習環境を整えるために、どのような学校がいいのか、どのような場所にあったらいいのかという視点で見ていただくとよいと思っています。

話を芦原中学校区の方に戻し、具体的なプランを説明させていただきたいと思います。

まずは、現状がどうなっているのかをまとめてあります。

続きまして、計画条件ということで、計画案1の小中近接の場合にはこういった条件になるということとその下にまとめてあります。次ページには計画案2ということで、小中併設案の場合の計画条件ということでまとめてあります。

続きまして、建物配置になります。最初にお断りをさせていただきますが、こちらにこのような絵を描いていますが、これで決まって、これで進めていくということではなく、まず場所を決めるにあたって、議事をしていくための絵ということでご承知おきをお願いいたします。ただ、全く当て推量の絵ではなく、きちんと精度を高めた絵になりますので、そういったところからいろいろイメージを膨らませていただければと思っています。

14ページについて、真ん中で右側と左側に分かれています。右側が既存の芦原中学校、左側が水明小学校に新しい統合小学校を建てた絵になります。こちらは両方とも1200分の1の同スケールで並べてありまして、土地の広さや建物、区域を比べながら見ていただくとよいと思っています。

まず統合小学校の方ですけれども、案としては既存校舎のところに新しく校舎を建てるようなプランになっております。また芦原中学校の方ですが、このままいくとクラスが9クラスになることが予想されていますので、一番北側の校舎を減築することによって、そこに駐車場スペースなどを作ることができるのではないかと考えております。

続きまして計画案2の建物配置になります。芦原中学校に新しい統合小学校も建てるというプランになります。こちらと同じく1200分の1のスケールになっていますので、計画

案1と比較しながら見ていただくとその違いがわかりやすいと思います。

既存プールがある位置に、プールを潰して新棟を建てる案になります。新棟を建てますけれども、大きさに元の中学校のほうが大きい建物で、新しい建物が小さい建物になりますので、小学校と中学校の入れ替えも併せて考えております。

オレンジ色の既存校舎が小学校、新しい建物を中学校とする案になっております。これのメリットは、新しく中学校棟を建てることで、中学生も小学生も仮設校舎に入ることなくそのまま授業ができます。中学校棟を建てて中学生が引っ越しをする。中学生がいなくなって空いたところで、小学生用に改修工事をし、小学生を迎える準備が整い次第、小学生は移動できます。真ん中の棟を低学年用にすることによって、その前のスペースが低学年の中庭として使うこともできますし、給食室などの共有スペースも低学年の方が近くなるメリットがあります。一方で、元々プールがあった場所を潰してしまうので、プールがなくなってしまいます。ですので、水泳の授業を何らかの形で用意する必要があると思います。

計画案1に戻りますが、水明小学校のところに統合した場合、スクールバス等も検討をしていかなければならないというところで、バスが入ってくるスペースがどうしても足りないということは、先の協議会の中でお話をいただいておりますので、こちらに関しては、水明小学校のほうに、少し用地の拡張を考えていかないといけないと思っております。

また同様に、計画案2も先ほど申し上げたように、プールがなくなってしまいますので、そういったところも含めて周りの用地拡幅も考えていく必要があると考えております。

続きまして、計画案1、小中近接の場合の中のゾーニング案になります。中学校に関しては、建物的には一緒ですので、新しく建てた建物の場合はこのような案が考えられるというものになります。

先ほどもご説明させていただいた、望ましい学習環境というものがありますが、そういったものをこのフロアの中で実現していくような仕組みができております。1階のオレンジ色のところですが、こちらに地域開放スペースがありまして、こちらは先ほど説明しました、地域の方が集って何かをやって、その中で休み時間などで子どもたちと交流しながらといったことをイメージできるかと思います。また至るところにオープンスペースがありますが、そういったオープンスペースの中で異学年交流などが進んでいくことを想定しております。

続きまして、芦原中学校に併設した場合の、新しい建物を建てた場合のイメージになります。1階から見させていただきますと、図書・メディアセンターがありまして、こちらも異学年交流のスペースを用意してあります。併設の場合には異学年が小学校だけではなくて、小中の異学年の交流ということも考えられます。また同様にオレンジ色のところに、地域開放スペースを用意して、地域の方が学校で何かをする姿もイメージしたのになります。

最後に、参考ということで、コミュニティスクールの方向性について様々な考え方があるという中で、公共施設マネジメントで、公共施設が現在どのような状況なのかをまとめています。地域開放スペースなどで、学校とどのようなことができるのかということも一緒に考えていきたいという資料であります。

次ページは、地域機能拠点という形で、小諸東中学校区も芦原中学校区も進めていく中で、どちらにも同じ施設を用意するというのではなく、何らかの特徴を持たしていくことも考えていく必要があるということで、資料を載せてあります。

説明をさせていただきましたが、すぐにイメージできるかはなかなか難しい部分もある

と思いますので、まずは事務局からのご説明とさせていただきます。ありがとうございました。

(会長)

ありがとうございました。続いて、この計画の資料を用意していただいた委託事業者であるファインコラボレート研究所の望月さんより補足説明をお願いいたします。

(望月氏)

ご紹介いただきました、ファインコラボレート研究所の望月と申します。

今、事務局が説明いたしました、補足ということでご説明します。

大きな流れとしましては、先ほどもございましたが、まず前提条件の話はよろしいと思いますので、プランとしては三つあるという形になります。

11 ページに航空写真がありますが、これが現状になります。上にあるのが芦原中学校、下にあるのが三つの小学校になります。これをそのまま使っていくというのがあります。皆様、お分かりになると思いますが、それぞれに校舎がかなりありますし、老朽化している校舎をずっと使い続けていくためには、当然改修し、一部は建て替える必要があるという状況です。また、敷地面積、児童生徒数、学級数についてですが、令和3年現在の児童生徒数、学級数が、10年後の令和13年や20年後にどうなるかという推計がありまして、ここに記載してあります。よくわかりだと思いますが、既に千曲小学校については、児童生徒数は90人、これが10年後だと71人になります。こういうお話は説明があったとおりです。

次のページですが、これが条件ということになります。計画案1は統合小学校と芦原中学校の近接型、それから計画案2は小学校中学校を全部合わせていく併設型になります。

これの大きな違いは、簡単に言ってしまうと二つの施設があるというのが計画案1で、現在の芦原中学校に集めていくというのが計画案2で大きな違いがございます。

14 ページ、15 ページは計画案1のプランと計画案2のプランでそれぞれ1枚になっています。先ほど説明がありましたが、1200分の1で縮尺を全部合わせましたので比較していただきたいです。

いずれも現状よりよくしていかなければ、当然やる意味がありませんので、最低限やらなければいけないということで、スクールバスの停車やロータリーの問題、セキュリティの問題、それから地域の拠点化にするということに関しては、計画案1でも計画案2でも十分できるようにしてあります。先ほどもありましたが、スクールバスの問題だけでなく、例えば計画案2の15ページをご覧くださいとお分かりになると思いますが、小学校と中学校の両方合わせるとということになりますので、現在の芦原中学校のグラウンドだけでは狭いということになります。この中に小学生用運動場とありますが、今はテニスコートになっています。このようなところも広げながら、グラウンドを広げることもやらなくてはならないとあります。

また、建物に関しましては、まず14ページの計画案1ですが、小学校は新設ということで建て替えます。地域の交流や小学生の交流が生まれるということで、絵としては16ページになります。14ページと横に並べていただいて見ていただきますとわかりますが、これが連動しております。

計画案1は水明小学校の統合小学校のイメージを入れてあります。下側に1階、上側に2

階となっています。1階ですが、小学校の低学年のスペースということで、中庭、教室、それから多目的室というプランですが、こういうところをうまく活用しながら、テラスを使って、低学年が安全に遊べるようになっていきます。また、答申の中にもありますが、アクティビティということで、ALTの先生と車座になって、子どもたちが英語発音など、英語の授業を行っているという絵が描かれています。

1階は低学年スペースということで、1階の部分で低学年が様々な形で学ぶことができます。それから1階の一番左のオレンジの部分ですが、地域交流スペースがあります。既に芦原中学校区では地域ボランティアが学習サポートをかなり積極的にやられておりますので、放課後ボランティアの方がいわゆる学習サポートを実施していくことが実現できると思います。

それから時間外、ないしは休日になりますと、体育館といったところまで広げて地域の方々が使うことができるように、セキュリティの問題をクリアしていくような形で、仮にですが1階に入れている状況です。2階の部分ですが、小学校の高学年ということで、こちら側の特色は、今いろいろな新しい学校でとられています。廊下の部分を広く作りまして、教室と廊下と多目的室などを使いながら様々な学習ができるスタイルがとれるようにしています。多目的室のところで、いわゆる学年を超えた繋がりということで、高学年が低学年へ読み聞かせなどもできるようになりますし、共に学び交流を深めるということで、中学生が訪れて小学生へ読み聞かせするという交流もできます。それからオンライン上で小学校と中学校のカリキュラムマネジメントということで、先生たちが、例えば芦原中学校と繋がることもできる。こういった形で自由に使えるという絵を描きました。答申の新しい学習環境をこういう形で実現できるのではないかと思います。

計画案2に関しては15ページになります。これは芦原中学校と3小学校を併設する案になります。事務局から説明がありましたとおり、現在の芦原中学校に小学校を併設する。今、このような例はかなりいろいろなところであります。今度、視察に行きますが、小学校を小・中学校にしたという視察も組まれているのではないかと思います。

芦原中学校に小学校、中学校を併設した形ということで、具体的には18ページになります。18ページ下側に1階のプランがあります。こちら側が小学校の低学年になりますので、もちろん改修をいたしますが、現在の教室と多目的室、ここにも中庭があります。小学校にも英語の授業がありますのでこのようなところを使います。また、18ページの1階の左側の増築する予定のところですが、ここの部分も含めていわゆる小学生が交流できるということで、時間外ないしは放課後に地域交流スペースとして、当然セキュリティを確保いたしますが、限定した地域の方がボランティアとして放課後の学習サポートなどをすることで交流が生まれてくるということで展開図を描きました。

18ページの左上の部分に2階があります。芦原中学校はエレベーターが完備されておりますので、エレベーターと階段で十分繋がっている状況です。特に2階ですが、ここが一番交流の中心になります。増築をするいわゆる中学校の部分と、既存の建物の部分が回遊できる形になります。2階平面図と書いてあるところは、教員のスペースになりまして、小学校、中学校の教員が集まるスペースをここに集めております。

そして様々な形態の交流ということで、生徒と教員の交流、小中教職員の交流、小学生と中学生の交流、学年を超えた交流などを、多目的室や半円形になっているところがありますが、このようなところが既存の芦原中学校にありますので、こういうところを使って行いま

す。こういうところで新しい学習スタイルとして特別教室とかで先ほど説明ありましたが、中学校の専科の先生が小学校の高学年を教えることもできるようになっています。

17 ページは3階部分になります。ここは中学校と小学校の高学年ということで、ここでも様々な交流ができます。2階、3階で移動ができ、それから1階の部分での様々な会議ができる。こういうところが一つの敷地だと実現できると思いきかせていただいています。

最後、19 ページ、20 ページですが、事務局からの説明のとおり、これから児童生徒数が減るということも含めて、やはり学校を支えるためにはコミュニティスクールが非常に大事ということです。例えば、20 ページの右側を見ますと、そこに図書館があります。例えばコミュニティスクールとして地域図書館を併設することによって、ここが地域の方々の活動の場になる。閲覧・ロビー、コミュニティ機能などを併せ持たせて、先ほどの放課後に学習サポートするようなボランティアの方々の居場所も含めて確保していくという形でコミュニティスクール化します。

そして学校への各種サポートになりますが、20 ページの上にサポートメニューと書いてあります。教材作成のサポート、オンライン授業による授業サポート、図書館司書による学習サポートなどをする。このような展開をしていくと学校が非常に活性化していくと考えます。

休日それから時間外は地域の方がこのようなところを使っていく。このような機能を入れることによって、小諸市はいろいろな公共施設を持っていますので、このようなところと連携していく。もう一つはスポーツの拠点を考えています。これらの有効活用、それからソフト面でのサポートなどを行って、統廃合する学校だけではなく、まだ4校全てを残している小諸東中学校区のほうも、いい状況を作っていくことが必要ということで入れさせていただいております。

(会長)

望月さんありがとうございました。

続いて教育次長から補足説明をお願いします。

(教育次長)

私から、事務局で説明しました、芦原中学校併設と小学校近接の計画案が2案に絞られた経過を少し説明させていただきます。

この芦原中学校区域の3小学校の統合の場所ですけれども、皆さんに最初にお配りしましたが、小諸市学校再編基本構想を策定しました。この基本構想につきましては、教育委員会で学校再編検討会を1年間にわたって延べ25回ほど開催をいたしましてこの基本構想を策定しました。その中で、芦原中学校区の配置については、中学校に可能な限り近く、既存3小学校からなるべく離れないこと、また、校地は施設を含めて2万5000平米程度の用地を確保できることとしました。この条件に合うところはどこかということで、都市計画図などを広げながら検討をいたしました。その結果、様々な場所を検討しましたが、現状において、今説明をしました水明小学校の敷地か芦原中学校の敷地以外はこの条件に見合うところがなかったということで、2案の候補地とさせていただきました。また、事務局が説明をしましたが、建物配置のゾーニング案ですが、これはたたき台ということで、必ずしもこのとおりになるということではありません。これにつきましては校地が決まったら、またプラ

ンニングは別途考えるということでお考えください。

(会長)

ありがとうございました。それでは、事務局、望月さんからの説明に関しまして、ご質問から受けたいと思います。説明していただいたり、資料等を見ましたが、なかなか整理できないと思いますので、四、五分時間を取ります。皆さん、ご質問ご意見まとめていただければと思います。

〈思料時間〉

よろしいですか。

先ほどお話がありましたけれども、今まで6年にわたり、様々な検討会や審議会を重ねてきました。この前の審議会の中でも二十数回審議し、それ以前を合わせるともう何十回になるかわかりませんが、ある程度いろいろな観点から検討しながら、教育委員会としても、まだ決定ではありませんが絞り出してきているわけです。

先ほど事務局から説明ありました案が一つの方向として今考えられています。それをもとに今日お集まりの委員の皆様から、それぞれの立場での考え、意見、質問を出していただいて、さらにいい案になればということです。次回は現地の視察があります。芦原中学校、水明小学校それから次は東京などの、今まで進めていたような学校へ視察もあります。そのときにどのような点を見たい、聞いてみたいということをいくつかに絞ればよいと思ってこれからご意見をいただきたいと思います。

それではまとまった方からご発言をいただきたいと思います。

(構成員)

質問ですが、二つあります。計画案1の小中近接の場合について、厳密には小中学校が別々の場所にあると思いますが、その場合の小中学校の交流のイメージはどのような感じなのかを聞きたいと思います。歩くと十二、三分ということなので、少し距離的にあり、交流はどのような感じになるのかと思いました。

次に、計画案2ですが、小中併設にする場合、芦原中学校の今ある場所に小学校も合わせて作るということですがけれども、その場合、水明小学校の跡地になる場所はどのように使われるのか。例えば、芦原中学校のグラウンドが狭いとしたら、第2グラウンドとして使用できるのかどうか。他の小学校の跡地も気になりますが、近いところの水明小学校の跡地を、小中併設にする場合、何か活用する予定がありそうかどうか聞きたいと思います。

(構成員)

小中学生の交流をどのように行われるのかということと合わせて、先生方も中学の先生が小学校を見るというような案が出されていたかと思いますが、そのようなことも含めてどのようにお考えなのかということをお聞きしたいです。

(会長)

現在の状況を話しながら、今後どういうイメージになるか。

お二人のことをまとめて、小中連携の場合、特に中学校と小学校が若干離れた場合、その交流のイメージはどうか。行き来が大変だろうということが考えられます。現在、行っていることもお話していただきたいと思います。具体の部分ですので、小中校長会の校長先生いかがでしょうか。わかる範囲で、今の小中交流の具体的なイメージをお話してください。

(構成員)

私がお聞きしている範囲ですけれども、小中の連携は、芦原中学校区のほうが小諸東中学校区よりも進んでいます。具体的に申し上げますと、中学校の先生方が小学校へ出向いて授業を行うとか、また逆に小学校の子どもたちが中学校へ行って授業を見るということは、もう前々からかなり進んで取り組んできています。

ですので、いわゆる近接型の水明小学校に新しい小学校を建てて、十二、三分歩いて中学校へ行くことについて、現在の形を継続していくことは、私としては可能だと思っています。ただ、歩いて十二、三分の時間があったいことは確かです。

今の芦原中学校区の体制として、水明小学校との間の十二、三分をかけてでも交流はしていけるだろうと考えます。もちろん一体型の方がすぐにでもできますので、ベストでありませぬけれども、そのように私はお聞きして思いました。

(会長)

2点目の、もし芦原中学校に併設となった場合、水明小学校の跡地の利用についてどう考えているか、事務局お願いします。

(教育次長)

構成員からの、例えば第2グラウンドとして使用するということは、いい案だと聞いていました。ただ今の段階では、どちらに統合小学校が建つのかは決まっていない段階ですので、跡地の利用については、まだ決まっていません。

(会長)

まだ、そこまで考えていないということです。もし、芦原中学校へ併設の方向で進むようになったら、すぐ考えていかなければいけないことかと思えます。水明小学校に限らず、ほかの小学校でもそうなるわけです。

では、ほかの点でご意見ご質問ありましたらどうぞ。

(構成員)

芦原中学校へ小学校を併設する案についてお聞きしますが、今のプランだと、小学生用の運動場について、図面に入っていますが、四百数十名規模の子どもたちのことを考えると、この広さは絶対的に足りないと思います。ただ中学校の授業がないときには中学校の運動場がもちろん使えると思いますが、やはり重なる部分がどうしても出てきます。この芦原中学校の周りを航空写真で見ると、畑があったりとか、雑草があったりするのですが、ここを広げられる可能性があるのかどうか知りたいです。

(教育次長)

構成員のおっしゃるとおりだと思います。芦原中学校に併設する場合もそうですが、水明小学校に近接する場合も、先ほどから話が出ていますが、例えばスクールバスが回転する場所は必要になるのではないかとのご指摘をいただいています。構成員がおっしゃるとおり、水明小学校の周辺、また芦原中学校の周辺について、今考えているところでは、拡張も可能ではないかと思っています。地権者の皆様がいますので、決まってからのお話になると思います。

(会長)

ほかにありますか。

(構成員)

プランが大変緻密にできていて、担当の皆さんが精力を使っていることはわかりました。それで、統合小学校ができますが、例えば、今から 14 年前に望月の学校は、本牧、布施、春日、協和の 4 校が統合して一つの学校ができました。このときには協和小学校が敷地になって、校庭に新しい学校ができて、協和小学校は授業をやっていて入ったということがありました。これは水明小学校のプランによく似ているという感じがします。

もう一つは、佐久穂の小中学校が今から 7 年前に統合されました。小学校が四つ、中学校が一つ。全く新しい学校が小中併設校としてできたと思っています。

その中で、望月小学校の場合には、スクールバスが 7 台、タクシー路線は 2 路線で子どもたちの通学に活用しました。

今、千曲小学校、水明小学校、坂の上小学校の 3 校が統合した場合の通学に関して、児童の送り迎えがスクールバス待機ゾーンとバス路線と書いてあるのですけれども、具体的にバスが何台で、どのようにという人的な動線がどうなっていくのか。現在の芦原中学校も大変だと思っていますが、生徒の送り迎えの自家用車が本当にいっぱいになっているような状態です。あの通学路でいいのかというのが心配です。通学路のプランを考えておいたほうが良いと思います。

もう 1 点、事務局から望ましい学習環境、理想の学校というお話があって、なるほどなと思っていますが、小諸の 6 つの学校が伝統的に培ってきたもの、もっと具体的には坂の上小学校、水明小学校、千曲小学校で培ってきたものが、統合小学校へどのように反映されていくのか。

これは来年 5 月の議会で承認されてからの動きなのか、それともその 3 校で具体的な統合の学校についてのプランが動き始めているのか。その点も聞いておきたいと思っています。つまり学校現場、地域の声をどのように反映させるかということも大事なことだと思っています。

校長先生方はこのことをどのように考えているのかお聞きしたいと思います。

(教育次長)

最初の質問について、スクールバスの関係ですが、今、構成員がおっしゃったことはいちいちごもっともだと思います。今ご紹介いただきました望月小学校や臼田小学校の例を参考にさせていただいて、当然今までよりも通学の距離が長くなる子どもたちが出てきます

ので、スクールバスも考えております。

ただ、どの場所になるかによって、どのようにするということは変わっていきますので、それについては、検討したいと思います。また、バス会社とのお話もありますので、その部分は先進の事例もありますので、そのような例を参考に考えさせていただきたいと思います。

3 小学校の統合について、それぞれの特色や伝統的な関係ですが、校長会において具体的な細かい部分のすり合わせは始めた方がいいと校長先生から提案がありまして、話し合いを進めているところです。

(教育長)

3 校の培ってきたもの、伝統ですが、いずれも大事にしていかなければいけないと考えています。しかし、具体的に動き始めているかと言われると、そこまでまだ話し合いに至っていません。11 月 1 日に小諸市の学校職員会が小諸東中学校で開催されました。これは、小諸市全体で小中の職員全員が集まって研究を進めていくということで、かつてからずっと引き続いてきた研究会です。本来でしたら授業参観があり、小諸東中学校を会場校として学年会がもたれてということだったのですけれども、あいにくコロナ禍ということで、各校で Web によって視聴するという形で、残念ながら授業参観もありませんでした。その研究会で、学校再編の状況や今後の教育のあり方等々を 50 分ほど話をして欲しいということで、依頼されておりまして、第 1 回懇話会で使用しました内容を紹介いたしました。

一番先生方にわかっていただきたいことは、幼保も含めてですが、今の段階では小中を貫く学びというものをどう考えればよいか、どう構築していくかということで、今ここまで至っているという経過と、今後の希望や夢を語らせていただきました。

(会長)

今は令和 4 年ですが、一つの目安とすれば、令和 10 年にスタートできればということですので、そういう意味ではまだ数年ありますが、場所が決まらないと、それぞれどうするかということが審議しにくい部分もあります。

本日は、主に計画案 1 と計画案 2 として、水明小学校の場所に小学校 3 校が集まった場合と芦原中学校の場所に併設で 3 校が集まって統合をした場合にどうなのか。その二つの方向が、まだ決まっていますが、示されました。その辺りをそれぞれのお立場で、ご質問等をどんどん出していただいて、次回の視察に生かせればよいと思います。

(構成員)

構成員からのご質問ですが、三つの学校の良さを生かしていくということは、教育長が申し上げたとおり、大事にしていかなければならないと学校現場も当然考えます。ただ、三つの学校でやってきたことを全て新校で生かしていけるかということ、それは難しい面もあります。

美南ガ丘小学校は、50 数年前に美里小学校と南小学校が統合してできました。学校の歴史に書かれているものを読むと、旧南小学校、平原にあった学校と御影にあった学校を統合するときに大揉めに揉めたそうです。その歴史があったので、美南ガ丘小学校を作るときには数年かけて、先生方の交流、子どもたちの交流、PTA の会合を一緒にやるといった下準備

をしてきたそうで、その記録が残されています。

3校の統合に向けても、それぞれの学校の良さとか伝統とか地域の願いとかを十分にすり合わせていく場がやはり必要ではないかと思えます。校舎を建てて、建物ができたら一緒にすればよいだけではないというのは、お話のあったとおりで私も思っています。

ただ、全てを叶えることは難しいと思えます。どこを大事に残して、どこを入れないのかを、地域の皆さん、PTAの皆さん、先生方で十分話し合ってからスタートを切るべきだと私は思っています。

(会長)

今、一つ、いい例を示していただきました。学校だけでなく、地域、子どもにそういう時間は大事だと思います。まだ数年ありますが、それでも考えを進めていかなければという部分もあります。

(構成員)

今、小諸の中でも、ほかの学校にも目を向けると、小諸高等学校と小諸商業高等学校が再編計画で小諸商業高等学校の跡地に校舎を建てることを決めたということで、もうじき具体的な話があると思えます。また、保育園に関しても芦原保育園がプールの跡地にできたことを聞きながら、どうしても場所的に、小諸商業高等学校も芦原中学校の近くにありすし、芦原保育園も芦原中学校のすぐ近くにあったということで、無関係ではないというところで、動向を注視して、お互いが同じ方向を向いたり、情報を仕入れたりして、無駄なことをしないようなことをしたほうがいいと思えます。芦原中学校に併設することを仮定した場合ですけれども、その辺の動向をどう注視しているのかが気になっています。例えば、芦原中学校のプールがなくなってしまったときに、芦原保育園の跡地にプールができないかとか、そういった考えはあるのか。そういうのを有効活用できたらと思いました。

(会長)

構成員の皆様の中で、千曲小学校のエリアで住んでいる方はおりますか。

距離的には、芦原中学校にしろ、水明小学校にしろ、遠い距離になるのですが、地域の方は、もちろん全ての方ではないし、それが全てではないのですが、どのようなことお話をされますか。

(構成員)

具体的には、芦原中学校へ通うときにはバスの問題があります。通学バスが出ていますが、現状は小学校までバスで通った後に中学校まで行っているのですけれども、そうすると1時間ぐらい車に乗っている子が多くて大変だということで、バスの増便を希望しています。しかし、小学校に行った後に中学校に行くという流れになっていて、それでも今まで小学校行きのバスはなかったのですが、4月から出していただいたので皆さん喜んでいますが、やはり親御さんが毎日送らなくてはいけないという話も出ています。先ほど、伝統という話の中で、白いもの総合学習というものがあるのですけれども、統合した場合、みんなで移動してやるのは問題があるのではと考えたりします。

(会長)

ファインコラボレート研究所の望月さんに聞きたいことがあります。今日、説明していただいた芦原中学校へ小学校を併設した場合、今日の示されていたプールの場所へというのは、今まで頂いた資料の中にありましたか。私の記憶では、芦原中学校の入り口あたりに、縦に小学校を建てるという資料は見た記憶があるのですが、プールのところに小学校を建てるというのは見た記憶がないのですが、今までの資料の中にありましたか。

今日示された、芦原中学校のプールの跡地へ小学校をとというのは、小中のいろいろな交流の面で、かなり素晴らしい理想的な位置になると思いましたが、今までの資料にはそれがなかったのでお聞きします。

(望月氏)

去年の協議会資料に建物配置案があると思います。

今回の14ページ、15ページですが、小中合わせると、グラウンドをできる限り広く取らなくてはいけないということで、グラウンドに建物を建てて潰すのは難しいということで、プールの場所に置いてみました。

あと、15ページのオレンジ色の部分が既存の芦原中学校の建物ですが、それにうまく併設して、既存の学校と新しく増築したものが回遊できたりするというので、ここにおきました。

(会長)

この配置は素晴らしいと、今日改めて見たのですが、ただ、プールが潰れるのはどうしたらいいか。これは、次回の視察で、ここなら土地を拡張すればプールはできるのではないかと、校舎とも通いやすいのではないかとといったところを具体的にみてみないとなんとも言えない部分だと思えます。

(望月氏)

プールに関しては、やはり市全体で使えるようなものを建てたほうがよいと思います。

(会長)

何かの資料にありましたが、日本を広く見ればあるようです。私としたら、行き帰りの時間がもったいないような気がします。

最後にご質問ご意見がありましたらお聞きしたいと思います。

なければ、今日リモートでご参加していただいております小松先生に、今までの話を聞いて、感想がありましたらお願いしたいと思います。

(構成員)

だいぶ後半でまとまってきたと思います。考えるべきことはたくさんあるとは思いますが、まず一つは、やはり将来のことを考えていくと、私のいただいた資料には子どもの数の変化予測のグラフがありますけれども、30年後には現在のさらに半分になるという予測になっています。

その時点のことまで考えると、こういった施設を分散させておくのは、あまり得策ではな

いという気はしております。全体としては、やはりなるべくコンパクトに持っていくという方向のほうがよいという気はしています。あとは、例えば教育の可能性みたいなことを考えたときに、小学校と中学校のギャップというのはいろいろ言われているのですが、実は大学でも同じような話がありまして、高校の数学がよくわからないまま大学生になってしまう子どもが多いらしくて、様々な大学で高校の補習を行うということを始めているところもあります。

そういうギャップをなるべくいろいろな段階でなくしていくということを考えると、小中併設のほうがそういった教育の場を設けやすいのではないかと考えたりしておりました。これは運用の問題なので直接は関係ないと思いますが、ただそういった可能性を作れるとすると、やはり併設のほうが可能性は高いと感じております。

それからプールの話がちらほら出ていましたが、芦原中学校に併設するという案では、体育館や給食棟はそのままでないという案になっています。この辺を改築することによって、例えば体育館の屋上にプールを持ってくるなど様々なことができると思います。できればその中に図書館や他の施設などいろいろなものを入れて、地域の拠点にしていくということも、案の中にも多少入っているのですが、もっとそれを積極的にやることも考えられる気がしております。

この辺は、実際に敷地が決まって、具体的にどうするかという段階で、いろいろな検討は可能だと思いますので、あまり細かいことは、今、心配しなくても何とかなるだろうと私は思っています。

大きな方向として、計画案1なのか計画案2なのかというところは皆さんの合意をとっていただければと思っております。

(会長)

ありがとうございました。

体育館の屋上にプールを作るということは考えていませんでした。本当にいいお話お聞きできました。

それでは、今日のご意見ご質問は以上で終わりにしたいと思いますがよろしいでしょうか。

(2) その他

それでは、(2) その他について、事務局お願いします。

(事務局)

皆様、長時間のご協議ありがとうございました。先ほど申し上げましたとおり、次回は視察を予定しております。今日ご欠席の皆さんもいらっしゃいますので、私からそれぞれご連絡をさせていただいて、参加等についてお伺いいたしますので、その際にご回答いただけますようよろしくお願いいたします。

(会長)

視察の連絡ですが、午前午後となっておりますが、おおよその時間帯はわかりますか。

(事務局)

午前中に関しては、おおよそ9時、9時半ぐらいから2校を見る予定になっています。午後に関しては、1時か1時半ぐらいから2校回ります。24日も25日も、両校を回る予定になっておりますので、どちらか出られる日というご認識をいただければと思います。

(会長)

今日、教育委員会から、方向性として計画案1、計画案2と示されました。

今日の現時点では、計画案1で水明小学校の場所へ近接で建設する。計画案2で芦原中学校の場所で小学校3校を併設する。それともほかに考えた方がいい案はありますか。これだけお聞きしたいと思います。

現時点では考えられるのは二つの案ということよろしいでしょうか。

〈一同、同意。〉

ご同意いただきましたので、二つの案で進めさせていただきます。

最初に申しましたように、皆さんのお考えをいろいろお聞きして、いい方向へ進めていきたいと考え、いくつかご意見をいただきました。また視察した後、具体的に皆さんのご意見お聞きできれば嬉しいと思っております。

どうもありがとうございました。

3 閉会

〈進行：学校教育課長〉